

- ・培土は、ほ場の水がひいて乾いてから、しっかり行いましょう。
- ・開花期～9月上旬に高温・無降雨が続いた場合は、畦間かん水を行い、莢数を確保し、青立を防ぎましょう。
- ・適期防除を徹底し、病虫害被害を防止しましょう。

## 1 培土後の溝の連結

- ・培土後にできた溝は、額縁排水溝及び掘り下げた排水口と確実に連結して下さい。

## 2 開花期からの畦間かん水⇒ 莢数確保・青立防止

- ・開花期(7月中旬)～9月上旬は莢伸長、子実肥大のために十分な水分を必要とする時期です。
- ・開花期後3日以上晴天が続いた場合は、土壌の乾き具合に応じて畦間かん水を行いましょう。
- ・かん水は短時間で行い、ほ場全体に行き渡ったら速やかに排水して下さい。

### 【畦間かん水の効果】～収量・品質の向上～

- ① 着莢数の確保
  - ・落花・落莢の発生防止（青立ちの発生防止）
- ② 百粒重の増加
  - ・根の養水分吸収の向上
  - ・光合成の向上
  - ・根粒による窒素固定の向上
- ③ 品質の向上
  - ・ちりめんじわ粒の発生防止
  - ・茶色のしみ状斑紋粒（高温に伴う物理的損傷）の発生防止



## 3 病虫害防除

- ・病虫害防除は生育ステージに合わせて適期に実施しましょう。**防除時期の目安は裏面参照**
- ・葉の裏にも薬剤がかかるように、丁寧に散布しましょう。
- ・散布は風の少ない朝夕に行い、周辺作物に飛散しないように注意しましょう。
- ・7月下旬にウコンノメイガによる被害が見られたら、速やかに防除しましょう。

シュウレイでは葉焼病防除を忘れずに実施する



葉焼病(シュウレイ)

葉巻が6個/株以上、見られたら、すぐに防除する



ウコンノメイガによる葉巻

# ○病虫害防除の目安

## 《粉剤体系》

	品種	散布時期の目安	病虫害の種類	薬剤名	10a 当り 散布量
基本防除	シュウレイ	7月下旬	葉焼病	Z ボルドー粉剤 DL	4kg
	えんれいの そら	[1回目] 莢が伸びきった頃 (8月上中旬)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	スミチオンベルコート 粉剤 DL (収穫 21 日前まで)	3kg
		シュウレイ	[2回目] 豆が莢いっぱいになっ た頃 (8月下旬)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	Z ボルドートレボン 粉剤 DL (収穫 14 日前まで)
随時防除	えんれいの そら	葉巻が6個/株以上見られたら (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ	ダントツ H 粉剤 DL (収穫 7 日前まで) (3回以内)	4kg
			カメムシ類 フタスジヒメハムシ アブラムシ類 マメシクイガ		3~4 kg (マメシクイガの 場合 4kg)
	シュウレイ	葉や莢に食害が見られたら	ハスモンヨトウ マメシクイガ等	トレボン粉剤 DL (収穫 14 日前まで) (基本防除を含め2回以内)	4kg

## 《液剤体系》

	品種	散布時期	病虫害の種類	薬剤名・希釈倍率	10a 当り 散布量
基本防除	シュウレイ	7月下旬	葉焼病	Zボルドー 500 倍	150ℓ
	えんれいの そら	[1回目] 莢が伸びきった頃 (8月上中旬)	紫斑病	ベルコートフロアブル (収穫 7 日前まで) 1,000 倍	150ℓ
			カメムシ類 アブラムシ類	ダントツフロアブル (収穫 7 日前まで) 2,500 倍	
シュウレイ	[2回目] 豆が莢いっぱいにな った頃 (8月下旬)	紫斑病 カメムシ類	アミスター20フロアブル (収穫 7 日前まで) 2,000 倍 トレボン乳剤 (収穫 14 日前まで) 1,000 倍	150ℓ	
随時防除	えんれいの そら	葉巻が6個/株以上見られたら (7月下旬~8月上旬)	ウコンノメイガ	プレバゾンフロアブル5 (収穫7日前まで) 4,000 倍(2 回以内)	100~300ℓ
			マメシクイガ ハスモンヨトウ		
随時防除	シュウレイ	葉や莢に食害が見られたら	ハスモンヨトウ マメシクイガ等	トレボン乳剤 (収穫 14 日前まで) 1,000 倍 (基本防除を含め2回以内)	150ℓ